

関係人口の関係人口は関係人口になるのか

吉原 詩織

■活動内容

【目的】

「南越前町の関係人口(著者)が、南越前町に新たな関係人口を作ることができるのか」実験を試みる中で、関係人口になる過程を体系的にまとめ、関係人口の可能性を探る。

【実施内容】

①南越前町に人を呼び込む

南越前町での滞在経験や地域の魅力を、自分と関係の遠い人から順に話し、興味を持つ人を探した。結果として親しい関係の**大学生が来町し、地域の人と交流**を持つことができた。

②まちみらいチャレンジ2020、2021年度参加者へアンケート調査

回答者の87.4%が自身を関係人口だと認識し、貴重な体験や地元の人に魅力を感じて、100%の人が人を連れてきたいと思っていること、また、**62.5%が実際に南越前町に人を連れてきたこと**、関係人口が関係人口を作ることが可能なことなどが分かった。

③卒論作成

まちみらいチャレンジ参加者が関係人口になる過程を体系的にまとめた。また、**参加大学生は「まちみらいチャレンジ」の事業自体に意識**が向いており、事業と参加者のポジティブな感情や行動に関連があることが分かった。行政は「まちみらいチャレンジ」に参加する中で**派生する大学生と地域との関係性を重要視**しており、**地域と学生双方に対しての視点が同時に発現**していることが分かった。また、5つの考察がなされた。①参加学生は「地域支援を志向する外部者」として関係人口になった②「集団を超えて個人でつながる」関係性の成功事例になった③大学生と地域を絡めた事業では「受け入れる側の気持ち」が重要④大学を通さず個人の方が活動しやすい⑤行政と大学生の関わり方は途中段階にある。

■町との関わり

【来町期間】2020年12月17、28日【活動拠点】Daisan

【来訪場所】玉村屋、農地、北前船主の館右近家、道の駅南えちぜん山海里、花はす温泉そまやま、役場、ソースカツ丼のお店、ORIONBAKE、GENOME など

【ヒアリング対象者】「メンター」の学生、行政担当者

【アンケート対象者】2020、2021年の参加者16名

【地域で関わった方】農家の方、近所にお住まいの方、地域おこし協力隊、温泉の中でお話した方、参加学生など

【町との関わり】観光、地域の方とご飯会、近所の方のお家訪問(&つるし柿の工場の見学)、雪かき など《帰宅後》Daisanへ**特産品送る、つるし柿の会社の方のTV出演楽しみにする**など、連れてきた人の中にも南越前町での体験が日常に残った。

■情報発信・共有

●他大学交流(15人)、後輩(8人)、同級生(5人)に口頭で2020年の活動を話す。→1人が実際に来町

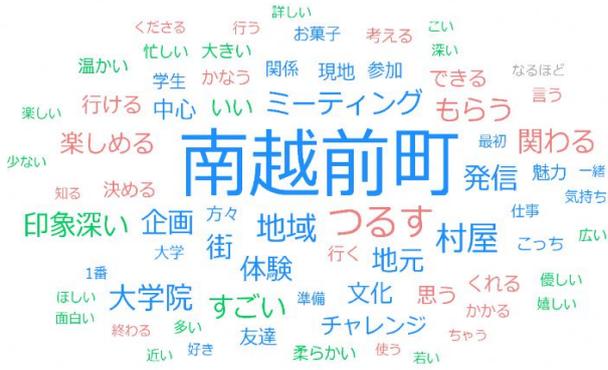
●口頭試問、卒論報告会で発表。→利他的利己(互いにwin-win)になっている良い事例。また地域のキーパーソンを見つけてコミュニティの形成が聞けるとより深みが出たという講評。

■成果

活動を通して気付いた点、自分自身の思い：南越前町で出会った人から様々な「生き方」を学び、自分を見つめ直す機会をもらい、就活の軸も決まった。感謝の気持ちがとても大きい。今後の新社会人生活で壁にぶつかったときには、この経験を思い出してほしい。

今後の町との関わり方：事業の参加者というよりも、第三の故郷としてもっとゆるくつながっていきたい。

■活動に関する写真等



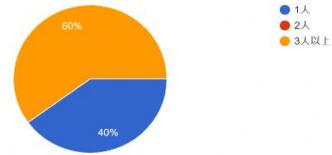
←学生のかたの
テキストマイニング結果
↓地域の方とご飯会



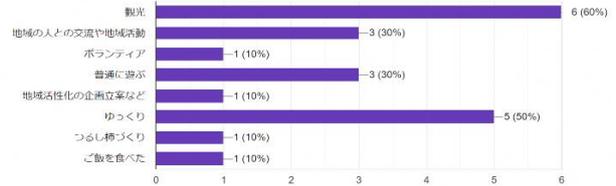
↓今年初雪の日に来訪



何人連れてきたか
10件の回答



実際に連れてきた人と何をしたか(複数回答可能)
10件の回答



地域活性化事業と大学生関係人口の図
↓ー関係人口になるための地域と大学生の関係ー

